



銚田市 波乗りDIYの家

06



一軒家のリフォーム

Hokota City

趣味のサーフィンを気兼ねなく楽しめる生活を求め、海からほど近い銚田市の空き家を購入した。引っ越したのは2021年。生活をしながら家のDIYを進めており、参考にしているのはアメリカ・カリフォルニアの街並みを残す「ジョンソントウン」（埼玉県入間市）の雰囲気だという。DIYで作られたクローゼットや漆喰で塗られた白壁などからは独特の風情が漂っている。海から帰った時に使うシャワーを玄関の近くに手作りし、屋内にはサーフィンボードをずらりと並ぶ。常に波や風の情報を収集しては、条件が良ければ隙間時間にもサーフィンに出かけるという。そんなGさんの空き家選びや暮らしについて聞いた。

Q. 空き家を購入するまでの経緯について教えてください。

埼玉県川口市の出身です。学生時代にサーフィンと出会い、留学やワーキングホリデーでサーフィン大国であるアメリカやオーストラリアで過ごしました。この経験から「波の近くに住んで、気持ちよく働きたい」と思ったんです。治安の良さや食文化の面から、海外よりも日本で落ち着いて暮らしたいと考えました。



日本で波が良い地域というと、茨城や千葉のほかにも九州や離島などが挙げられます。最初は暖かく街が近い場所で暮らしたいと思ったので、宮崎県を選び暮らしていました。その後、仕事や家族の状況に合わせて地元の川口市に帰りましたが、やはり海の近くに住みたいという希望があったので、茨城の家探しに踏み切りました。予算面の理由で家を安く購入したいと思ったのが、空き家を探し始めたきっかけです。



Q. 空き家はどのようにして探しましたか。

当時は不動産業者が運営するアプリはほぼ全て使って探していたと思います。大手の不動産業者のほか茨城に根ざしている不動産業者も利用しました。地元の不動産業者に登録しないと得られない情報もありました。気になった物件は現地も見て回りました。

物件を探す中で知識も増えました。「どんな家なら納得できんだろう」と思い、ジョンソンタウンの画像を検索したり、Googleマップでハワイのストリートビューを見たりしてイメージを固めていきました。

Q. 空き家を選ぶときに注意したことは何ですか。

建物の基礎がしっかりしているかや地震発生時に津波や液状化の心配がないかなどに注意して選びました。鉾田市には別荘として建てられた建物が多く、そういった物件が空き家になっていることがあります。空き家を見る中で、特に気をつけたのが基礎がしっかりしているかどうかでした。こういった注意点はインターネットで情報を集める中で知りました。

茨城には東日本大震災が発生する前にも来たことがあったので、地域が津波でどのような影響を受けたのかも知っていました。この家がある地域は高台で地盤もしっかりしているようです。



Q. 空き家に関して想定外だったことはありますか。

上水はあったのですが、下水がありませんでした。このため、自分で浸透升を作るなどして整備しなければいけませんでした。空き家を購入するときは、上下水道について不動産業者に確認するとともに地域の人のお話も聞いて情報を集めた方が良いでしょう。ただ、井戸水なので美味しいコーヒーを入れられる点は気に入っています。



Q. DIYではジョンソンタウンのこういった雰囲気
を再現されているのでしょうか。

ジョンソンタウンは、日本に駐在していたアメリカ軍人が住んでいた米軍ハウスを残した区画のことです。平屋建ての集合住宅で、白を基調とした外壁や「ラップサイディング」と呼ばれる外観が特徴です。ラップサイディングは幅の狭い板を重ね張りする手法で、外壁に立体感があります。アメリカのレトロ感が魅力的です。

ジョンソンタウンには塀がないため、空き家の周囲にあった塀のようなものは取り除きました。ウッドデッキも制作しています。また今後、外壁をラップサイディングにしたいと考えています。庭には小屋も作っているところで、DIYで使う道具などを収納しています。



Q. 地域との交流について教えてください。

地域には移住者も多く、交流をさせていただいています。地元の方々と仲良くなりたいと考え、仕事は銚田市で探しました。



Q. 空き家での生活についてどのように感じていますか。

海外では、仕事も趣味も楽しむ人が海などといった「遊び場」の近くに移り住んで集まり、タウン化するパターンもあるそうです。人によって重要視するものは、お金や名誉、場所など時代によって変化していると思います。空き家で暮らし始め、何を重要視するかは「何でも良いし、自分で決めて良い」と再認識しました。この家を見て、共感してくれる人がいれば嬉しいです。